

図書館ニュース

朝読コーナーリニューアル

No. 82

●平成24 (2012) 年4月20日 ●名古屋女子大学中学校高等学校図書館 ●

<http://lib.meiodai.ed.jp/>

本と向き合う時間

片田 益功 先生 (数学科)

中学・高校時代に読んだことのある教科書以外の活字の本と言えば、「異邦人」「車輪の下」「老人と海」といった読書感想文の定番といったものであった。夏休みの宿題で読まなければいけないので、本屋の読書感想文コーナーにおいてあるものをただ手にとって選んでいた記憶がある。おそらく、本と真剣に向かい合ったのは1年に1回程度しかない。そんな私がみなさんに「読書」について語る資格があるか疑問が残るところではあるが、自分の体験談を踏まえながら本との関わりをお話してみたい。

ほとんど読書をしなかった生活が変わったのは大学に入学してからであった。家から大学までの片道1時間半の通学時間が退屈で、その時間を紛らわせるために本を読むことにした。まず読み始めたのは、星新一や小松左京といったショートショート（最近あまり耳にしない言葉である）。つり革に掴まりながら片手で文庫本を読むことも、慣れてしまえば苦にならない。ストーリーも簡潔で読みやすいので、ある作者を制覇しては次の作者に進むといった感じであった。また、大学内の本屋には「ぼくらの七日間戦争」の宗田理、「セーラー服と機関銃」の赤川次郎、「機動戦士ガンダム」の富野由悠季等の本が並んでいて、原作を読んで映画を見たり、映画を見てから原作を読んだりするのも面白かった。

しばらくして、「もうひとつの恋文」という本を読む機会があった。もうひとつと言うからにはもともと「恋文」という話があったはずだと思い調べてみると、直木賞を取った連城三紀彦の「恋文」という作品が存在した（何年前にTBSでドラマ化されている）。劇的なストーリーではないが、登場人物の感情の変化の中にいくつかの鍵が隠されていて謎解きのような感覚が記憶に残っている。以後、連城三紀彦の本をよく読むようになり、人と人との関わりは複雑であると感じた。

結婚して子どもができてからは本との関わり方も変わり、本は読み聞かせるものになった。中でも松谷みよ子の「あかちゃんの本」(全9巻)は人に勧めるほどお気に入りの本となった。末っ子は最寄りの図書館に出かけると絵本・紙芝居を目一杯借りてくるようになったので、小さい頃から本を読んであげると読書好きになるのかもしれない。

「朝読書〜?」、「本を読むの面倒くさい」という声も聞こえてきそうではあるが、たぶんちょっとしたきっかけからみんな本を読み始めたはずである。ある本が好きになったら同じ作者の他の作品を読んでも面白と思う。まずは、今日の帰りに図書館に寄ってみませんか？

「名女の素100のレシピ」は、みなさんが素敵な名女生・大人になるために必要な栄養素として選ばれた本たちが載っています。そんな素敵な本のコーナーが今回、待望のリニューアル! をしました。今までの本はもう読んでしまったよ、という人も、新しい本がたくさん入ったので、またたくさん読んでくださいね。「名女の素100のレシピ」には、図書館が選んだ100冊と、先生方が教科ごとにおすすめする本が載っています。ここでは、各教科の先生方から推薦図書の中からおすすめの図書を紹介してもらいました。

理科 野中知里 先生

春の数えかた (高)
日高敏隆著 新潮文庫



4
H

今年も春がやって来ましたね。みなさんは春というと何を思い浮かべますか? 新しい生活が始まる季節ですが、花粉症のわたしにはちょっとつらい季節でもあります。色とりどりの花が咲いたり、たくさんの虫が姿を現すのもこの季節ですね。生きものたちはどうやって毎年きちんと春のおとすれを感じとっているのでしょうか。どうやら彼らは毎日の温度を計算して、足し合わせた温度が一定の値を超えると、花が開いたり卵から孵ったりするようです。なるほど、季節が冬から春に移り変わる時には、温かくなったり寒くなったりを繰り返しながら春に向かっていきます。このとき、その日その日の気温に反応してしまうと、せっかく咲かせた花や孵った卵も寒さで台無しになってしまうかもしれません。そこで彼らは毎日の温度を足し合わせて判断しているんですね。生きものたちのしくみの巧妙さには本当に驚かされます。『春の数えかた』には、身のまわりの景色の中にある生きものたちのしくみが他にも紹介されています。短編集ですので、朝読や電車の中で読むのにもおすすめです。専門家の筆者と一緒に、身のまわりの自然をもう一度見つめてみませんか。

国語科 池田正美 先生

悩む力 (高)
姜尚中著 集英社新書



159
K

悩むことはできるだけ避けたい、私達は普通そう考えるでしょう。だから本書のタイトルを見たらとまどう人も少なくないのではないのでしょうか。あるいは「~の力」というタイトルがはやっていることから「悩む」ことを勧めるのかと思う人もいるかもしれません。しかし、そうではないのです。経済格差、自殺者の増加が問題になっているこの時代にどう生きていくのか。「悩む」ことは考えることです。よりよい未来のために考えるのです。だが、特に現代社会に生きる我々は考える余地がない、逃げ場がない問題を抱えることが多く、「悩む」ことに疲れてしまっています。ときに考えすぎてしまったり、考える方向が間違っていたりすることもあります。そのような苦しい状態から抜け出すためにどうすればいいのでしょうか。考えて、悩み抜いた果てに著者はどうしたのでしょうか。著者が最後にとった行動こそ、ただの「悩み」を「力」に変えたものです。「力」に変わったきっかけは何なのか——。

新年度が始まり、様々な出来事が待ち受けているでしょう。嬉しいこともあれば、悩むこともあるでしょう。悩みに対して、ただ苦しむだけではなく、自分がどう行動していくのか。本書を一つの手掛かりにしてもらえれば、と思います。

数学科 秋田武史 先生

傑作! 数学パズル50 (高)
名問・良問の宝庫へようこそ
小泓正直著 講談社ブルーバックス



080
B
1694

どうせ数学を学ぶのなら、数学と闘うのではなく、数学と仲良しになって楽しく学んでみませんか? 数学科はそういう本を推薦図書に挙げました。そのうちの1冊がこの本です。書名の通り、数学を楽しむことができる名問・良問が詰まっています。高校数学に直結するものも多いです。

例えば、円周率 π は円の面積を求めるときなど、図形を学ぶときだけに登場するものではありません。正方形に円が内接している図形の積を撃つ問題では、「確率」を考えることで円周率 π が求められるモンテカルロ法が紹介されています。

プレゼント交換をランダムに配ったとき、自分のプレゼントが自分に来ってしまうこともありえますが、全員に自分以外のプレゼントが配られる確率を考える問題では、数学Ⅲで学ぶ自然対数の底 e と密接な関係があります。

決して、教科書だけが数学ではありません。このような本で名問・良問に取り組んで、いろいろな数学に楽しく接してみてください。数学の学力向上にもつながります。

情報科 金原和仁 先生

データはウソをつく (高)
科学的な社会調査の方法
谷岡一郎著 ちくまプリマー新書



080
C
59

数年前「数学を履修していた人の方が年収が高い」といった調査結果がマスコミに流れました。このとき、「よし、将来のために今から数学の勉強を頑張ろう」と思った素直な人はどれくらいいるでしょう。また、数学の勉強を頑張る人が増えるといいなと淡い期待を抱いた先生や、「お金のために数学を勉強しているんじゃない!!」という反骨心をむき出しにした人もいることでしょう。

この書籍は、「そもそも、その情報は信頼できるものなのか」といったことに焦点が当てられています。情報は人の考えや行動に影響を与えますが、世の中には胡散臭い情報も存在します。そういった情報に振り回されたくありませんね。筆者は、「世の中、半分以上のデータは単なるゴミだと考えるべき」と言い切っていますが、ゴミ情報を見抜くコツは何でしょう。世の中にあふれる情報とうまくつきあっていくにはどうしたらよいでしょう。いしひさいち氏の4コマ漫画が所々に挿入されており、ともすると難しくなりがちなテーマをわかりやすくしてくれています。コツをつかんで、情報化社会を上手に乗り切っていきましょう。

100のレシピ

名女の素100の
レシピから

先生の **おすすめの本** 紹介



英語科 三浦 聡先生



イチロー USA 語録 (高)
デイヴィッド・シールズ編
永井 淳・戸田裕之訳 集英社新書

783
S



この本はイチローがメジャーリーグでプレーし始めた2001年の新聞・雑誌等に掲載されたコメントを集めたものです。もう10年前の本ですので若干古くはありますが、この本を英語科の教員としてお勧めする理由は、英語と日本語の両方で文章が書かれているからです。この2つを見比べながら読むことで、様々な英語表現が学べます。

英語が好きな人にはもちろんですが、この本を一番お勧めしたいのは、英語は苦手だけれどスポーツは好きだって人に対してです。スポーツ選手ならではの発言がたくさんあって、スポーツ選手としてのメンタルのあり方などを学べると思いますし、苦手なもの(英語)を好きな内容(スポーツ)から入っていくというやり方はとても効果的だからです。

英語が苦手な人が読む場合には、まず日本語だけで一通り読むことをお勧めします。上にも書きましたが、この本は英語を学ぶという側面だけでなく、内容から学ぶという側面からも手にとってほしい本だからです。まず、日本語を読んで興味が持てこそ、英語と日本語の行き来を楽しんでもらえるのではないかと思います。また、英語に抵抗のない人は、英語だけ読むなんて方法も良いと思います。

社会科 吉松達彦先生



そうだったのか! 現代史
池上 彰著 集英社文庫 (中)

2
I



東日本大震災後、日本だけでなく世界中から被災地への支援の輪が広まった。現代の歴史をふり返ってみると、67年前の日本は戦後の焼け野原だった。その時から、世界でも類をみない高度経済成長を達成し、ここまで発展してきたのである。戦後からの日本人の力があれば、この震災からの復興も成しうるであろう。

そんな第二次世界大戦後の現代において、世界では何が起こっていたのか。すでに戦後生まれの人口が多くの割合を占める今こそ、その出来事を記憶の中に留めておく必要がある。日々のニュースに取り上げられる内容も、現代の歴史と深く関係している。

本書はまさに、こうしたニーズに応えるべく、分かりやすい解説でおなじみの池上彰氏による現代史の見方が説明されている。「ベルリンの壁って、東西ドイツの境にあったんじゃない?」「中国と台湾はどうして仲が悪いの?」など、ともしれば大人でさえ理解が十分でないことを丁寧に描写している。

本書より後の出来事であるリーマン・ショックからの現代史は、『そうだったのか! 現代史パート2』に続く。本書は、現代史の原点ともいえる国際関係を、大人から子どもまで読めるように作られている。

美術科 中矢篤志先生



恋する石膏像 (中高)
つめたい石膏像とあつく語ろう
早坂優子著 視覚デザイン研究所編

717
H



皆さんは初めて美術室に入ったときっと大きな白い像に驚いたはず。あの像は等身大石膏像のミロのヴィーナスです。また部屋を見渡すとそのほかにもたくさんの石膏像が置いてあります。皆さんはこの白い像たちに興味を持ったことはありませんか。石膏像は主に美術部員がデッサンの勉強のために利用していますが、美術にあまり関心のない人でもよくよく見てみるといろんな発見があるでしょう。この表情はどういう気持ちなのかとかこの像は手がないけどなぜだろうなど疑問を持つ人もいるかもしれません。

そこで今回紹介したい書籍は『恋する石膏像〜つめたい石膏像とあつく語ろう』という本です。それぞれの像はギリシア神話や聖書・歴史上の登場人物などがモデルになっていて面白い物語が存在します。

この本を読んでみると石膏像への見方も変わり、少し身近に感じられると思います。そして、もちろんデッサンを学びたい人には制作過程やポイントもわかりやすく解説されているのでよりよい作品を描くことが出来るでしょう。私も美大の受験生時代によく参考にしていました。

いままで興味がなかった人もイラストを多用した読みやすい本になっていますので、一度手にとってみてください。

保健体育科 青瀧雅人先生



スラムダンク勝利学
辻 秀一著 集英社 (中高)

780
T



この本は漫画『スラムダンク』の名場面と挙げられるシーンの数々が登場します。スラムダンクを読んだことがない人、またバスケットボールについてよく知らない人でも学ぶことの多い本です。

内容は精神論が多いですが、中でも一番のフレーズは『今すべきことをする』です。人はすぐに自分のできないことをしようとします。練習でもやったことがないようなこと、できなかったことを必死にやろうとします。そうではなく、今自分にできることを考えれば、今自分が何をすべきなのかは見えてくるということです。一つ一つの場面で今の自分に何ができるのか? そういったことを考えれば最適な選択肢を選ぶことは簡単にはずです。

過去を振り返るとネガティブになりがちですが、反省と確認は別物であるとも書かれてあります。自分の悪かったところ、できなかったことを反省するのではなく、自分に今何が必要なのかを確認することが重要だと書かれてあります。

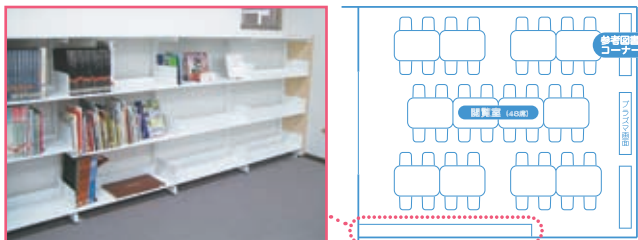
何も目標を持たず部活動を続けている人、ただ毎日を過ごしているだけの人はぜひこの本を読んでみてください。きっと人生観が変わると思います。漫画『スラムダンク』もオススメです。

平成23年度卒業記念寄贈品紹介

昨年度、高校を卒業した先輩よりたくさんの贈り物を頂きましたので、紹介します。

● 閲覧室の書架

図書館では、毎年1200冊ほどの本を新しく入れています。そのため、本を並べる書架のスペースが狭くなっていました。今回、閲覧室の壁際に新たな書架を寄贈していただきましたので、これからも多くの本を増やすことが可能になりました。



● 『日本史リブレット』『世界史リブレット』

教科書には掲載しきれない細かな史実がテーマ毎に小冊子に集約されているので、興味のある分野をピックアップして学習することができます。



● ipad

タブレット端末ipadを寄贈していただきました。インターネットによる調べ学習を取り入れた授業などに活用してもらえます。



編集後記

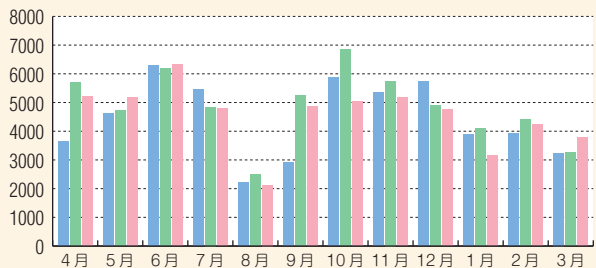
図書館に朝読コーナーができて2年がたちました。年間統計でも紹介したように、コーナー設置後、朝読コーナーをはじめ読書の図書が活発に利用されるようになりました。また、昨年は高校生を中心に新書や評論といった知識を蓄える図書も授業を通して読む機会を作ったことで読書のレポーターに加えた人も多かったのではないのでしょうか。この春、朝読コーナーがリニューアルされ、また新たな図書が紹介されています。図書館には小説や物語だけでなく様々な分野の図書が並んでいます。是非足を運んでみてください。

図書館に朝読コーナーができて2年がたちました。年間統計でも紹介したように、コーナー設置後、朝読コーナーをはじめ読書の図書が活発に利用されるようになりました。

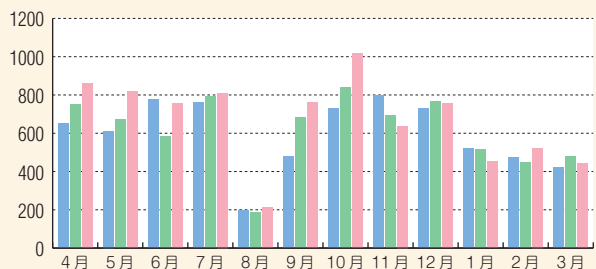
平成23年度利用状況

今年度も昨年度と利用者数、貸出冊数ともほぼ同じ実績となり、図書館を利用することが学校生活に浸透してきているのを感じられます。図書館では今年度は約1200冊の本を購入しました。図書の充実も来館者・貸出利用数の安定につながっていると考えられます。

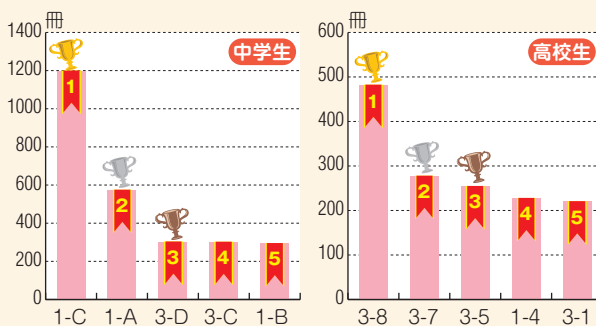
年間入館者数 [3年比較] H21年度 H22年度 H23年度



年間貸出冊数 [3年比較] H21年度 H22年度 H23年度



年間クラス別貸出利用ランキング



中学1年生は文庫の貸出を中心に、よく図書館を利用していました。

高校生のランキングは、高校3年生向けの論文作成講習の課題、進路の関係が多かったためと考えられます。

コーナー別貸出数の割合

一般開架コーナー、文庫コーナー、朝読コーナーを合わせると全貸出の8割を超える利用がありました。特に文庫コーナーは持ち運びに便利で通学の途中などにも読みやすいこともあり人気があるようです。

また、朝読コーナーは常に約1割の利用があります。朝読コーナーの認知度が上がり、また、読書の習慣が身についてきていることが伺えます。

